

令和2年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：教育学部

事業担当者の職・氏名：教授・後藤太一郎

内線電話番号：9260

電子メール：goto@edu.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

オー克兰ド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

海外の教育制度や教育現場の視察は、教員を目指す学生に、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大する機会となるとともに、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高める機会となる。

本事業は、平成 23 年度より実施しているニュージーランドにおける教育研修プログラムを継続するもので、9 月に実施を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、研修実施先のオークランド大学と協議を進め、オンラインによる講義を主体としたプログラムを実施した。参加予定をしていた学生に対応するとともに、海外研修に関心のある学生に周知することで研修参加を促進する機会とした。

(2) 事業の背景・これまでの実績

ニュージーランドでは急速に教育改革が進み、自立的な学校経営が推進され、教員同士の協同的な職能開発が行われている。教員を目指す学生がこのような教育現場に触れることで、教員になるためのモチベーションを高めると考え、オークランド大学教育学部に海外教育研修プログラム実施に関して交渉し、23 年度に第 1 回目を実施することができた。

交流の成果は、教育学部附属教育実践総合センター紀要、国際交流センター紀要およびオセアニア教育研究に報告した。また、平成 25 年 8 月には教育学部との間で学部間協定が締結され、平成 28 年 7 月および令和元年 6 月に更新した。

(3) 事業実施結果

以下のテーマでオークランド大学名鏡教授の Dr. John Hope によりオンラインによる講義とディスカッションを行った。

1. Education in response to the COVID-19 outbreak

11 月 25 日 13 時—14 時 30 分 参加者 12 名

2. Online education system in Auckland

12 月 2 日 13 時—14 時 30 分 参加者 14 名

3. Possible online international education programme

12 月 16 日 13 時—14 時 30 分 参加者 11 名

4. Life as a new New Zealander Dr. John Hope,

12 月 23 日 13 時—14 時 30 分 参加者 8 名

(4) 事業の意義

予定していた研修ができなかったが、10 月にオンラインによるプログラムを提案したところ受け入れられ、何とか実施することができた。これは、これまでの交流実績の成果による。当初研修に参加希望だった学生は 16 名であったが、オンライン参加への参加は少なかった。やはり現地での体験を希望していたようだ。

(5) 事業の発展性

オークランド大学教育学部からはプログラム実施の受け入れについて承諾を得ており、来年度の実施を予定しているが、コロナの状況と参加希望者によって判断することになる。現地での実施ができない場合は、早期にオンラインによる研修を企画する予定である。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

I-4-(1)-1-1: 世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、在学中に海外留学や国際会議などで海外へ派遣するための海外渡航支援制度や、ダブルディグリープログラムをはじめとしたアジアを中心とする海外からの留学生受入れプログラムを見直し、海外渡航学生数については入学定員の20%とし、受入留学生数については第2期の平均に比べ10%増加させる。

に伴う活動。

I-4-(1)-2-1: 地域社会からの要望の強い国・地域にある海外の大学との戦略的なパートナーシップを構築するため、国際戦略本部会議を中心に、国際的な教育・研究活動、国際交流事業、附属病院での国際的医療活動などに対して明確な意思を持った方針・戦略を策定する。

(7) その他

なし

令和2年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

海外の教育制度や教育現場の視察は、教員を目指す学生に、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大する機会となるとともに、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高める機会となる。

ニュージーランドでは急速に教育改革が進み、自立的な学校経営が推進され、教員同士の協同的な職能開発が行われている。教員を目指す学生がこのような教育現場に触れることで、教員になるためのモチベーションを高めると考え、オークランド大学教育学部に海外教育研修プログラム実施に関して交渉し、平成23年度よりニュージーランドにおける教育研修プログラムを継続している。令和2年度は9月に実施を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、研修実施先のオークランド大学と協議を進め、オンラインによる講義を主体としたプログラムを実施した。参加予定をしていた学生に対応するとともに、海外研修に関心のある学生に周知することで研修参加を促進する機会とした。

以下のテーマでオークランド大学名鏡教授の Dr. John Hope によりオンラインによる講義とディスカッションを行った。

1. Education in response to the COVID-19 outbreak

11月25日 13時—14時30分 参加者12名

2. Online education system in Auckland

12月2日 13時—14時30分 参加者14名

3. Possible online international education programme

12月16日 13時—14時30分 参加者11名

4. Life as a new New Zealander Dr. John Hope,

12月23日 13時—14時30分 参加者8名

予定していた研修ができなかったが、10月にオンラインによるプログラムを提案したところ受け入れられ、何とか実施することができた。これは、これまでの交流実績の成果による。当初研修に参加希望だった学生は16名であったが、オンライン参加への参加は少なかった。やはり現地での体験を希望していたようだ。

オークランド大学教育学部からはプログラム実施の受け入れについて承諾を得ており、来年度の実施を予定しているが、コロナの状況と参加希望者によって判断することになる。現地での実施ができない場合は、早期にオンラインによる研修を企画する予定である。